石垣たまご理論について

その発想と展開

患者主体の慢性疾患の予防(注1)を実現する④

DIPEx・NBM・EBM(注2)、そしてART(注3)を「上腹部の柔軟性」で串刺しにする②

統合理論について⑧

ROB治療によって「上腹部の柔軟性」が生まれ深く・長く・ここちよい呼気ができると「生と死」「予防・治療・ケアー・穏やかな死」「現代医学・東洋医学・各種医療」が統合される

前回6月16日(月)の中島さん（数えで、95歳）の診療風景とご相談の内容、そして中島さんの人生と病歴（図1）についてご紹介させていただきました。しかし、中島さんのもう一つの非常に大事な病歴が紙面の都合で、前回述べられませんでした。今回その病歴をみなさまにご理解していただいた上で、8月14・15日の日程表を中心にしてROB療法にもとづく予防法の経緯を述べてゆきます。

中島治子さんの同時進行ドキュメント

【Ⅰ中島治子さん(当時85歳)の4月の肺炎】

その後、中島さんは、13年間順調に生活をされていました。しかし、人間の弱さといいますか、体の調子がいい状態が続くと、どなたでもそうなのですが、本人さえも意識されない油断に段々とおかされてきます。

中島さんの生の声で言いますと、

「そん時は、油断してるつもりはないんですが…。やっぱり油断してましたな」というわけです。

中島さんは春先の季節の変わり目の温度変化についていけなくなり、また老化による内臓の働きと、体全体の機能の低下が重なり、その結果は次の通りです。

2005年（平成17年）4月11日　中島さん85歳。肺炎発病。咳(せき)、痰(たん)、高熱が続き、歩くことも食事もできなくなりました。

当然「上腹部の柔軟性」は消失していました。レントゲン検査で中島さんの右肺の上葉に明らかな肺炎の病巣を認め、現代医学のガイドラインでは、入院して抗生物質の投与が治療の基準となる症状でした。

中島さんは1991年の腎盂(じんう)腎炎の時、抗生物質の投薬では死ぬような思いをし、抗生物質を受けつけない体であることに身をもって感じとっておられました。

ご自身の体のことをよく知っておられる中島さんにとっては、抗生物質の投与を受けること自体が＝病院で肺炎の治療を受けること自体が、内臓の「はたらき」を弱らせて、多臓器不全となり、「死」そのものか、それ以上の苦しみへ続くことを、身にしみてよくわかっておられたのでした。

中島さんは強く私に言われました。

「抗生物質ではなく、投薬ではなく、内臓調整で治していただきたい。入院すれば、かならず抗生物質になる。私の体はそれでは持たない。なんとか石垣先生」

と、振り絞るような願いでした。わたしは、すでに病院への紹介状を書いていましたが、その意を含ませていただきました。ROB治療（内臓調整）を始めました。当初は朝夕2回の治療です。

当院には医師ら医療関係者が多数来院されておりますが、当時近隣の公立病院の院長がご自身の難病のために通院されていました。その院長の専門は心臓内科ですが、たまたま中島さんのレントゲンの診断の結果を見られ、「うちの病院に来られたら、即、抗生物質の投与ですね」とおっしゃっていました。

EBMにもとづく現代医学上の医療では抗生物質の投与は当然のことで、まさしくそれが、肺炎に対するガイドラインです。

4月18日　2回目のレントゲン検査の結果、先ほど述べた公立病院の院長も驚くほど中島さんの病巣がよくなってきました。「上腹部の柔軟性」が少しあらわれてきました。

4月26日　3回目のレントゲン検査の結果がでました。中島さんの病状をよく知る、病院への入院を強くすすめられていたS診療所の院長も、公立病院の院長も、口をそろえて「よくなりましたね」と診断されました。本人の咳、痰、熱もなくなり、食欲も出て、排尿・排便もスムーズになりました。「上腹部の柔軟性」がはっきりと生まれてきました。

中島さんは「生き返りました」とほっとした顔で深々と頭を下げられました。中島さん本人によると、小さい頃から、4月の季節の変わり目には特に成人になってからよく風邪をひかれていたそうです。それが老化と左心不全の既往歴と中島さん自身の不注意で、急激に負担がかかってきた訳です。左心不全の状態となり、肺から心臓の左心房に酸素を多く含んだ血液の流れが低下し、肺そのものに栄養豊富な血液が余分にたまったような状態でした。肺そのものが、栄養豊富な培養液のような状態でした。そのため、細菌がはびこり増殖し肺炎になったのです。

【Ⅱ中島治子さんの肺炎の予防】

2006年（平成18年）4月19日　中島さん86歳。中島さんは前年とほとんど同じ時期に肺炎を発病。咳、痰、高熱が続くが、内臓調整のみで治癒。

2年続けて肺炎になった中島さんは、「先生、新聞の訃報欄を見ていると、いろいろな病気で入院してもみな、肺炎で亡くなっとりますなあ。私は幸せです。ありがたいことです」としみじみと語っておられました。

その辛い体験から、中島さんの肺炎の発病に対しては、前もって予防していこうということで、2006年(平成18年）の夏から秋・冬にかけ予防的治療が

【Ⅲ8月15日の全国戦没者追悼式に参列される治子さん】

6月16日（月）午前の診療後のご相談

6月23日（月）たまごビル3階で石垣クリニック受診（現代医学的な検査と診断書交付）

7月4日(金)午前の診療後、中島さんと中島さんに付き添われ日本武道館に行かれる娘の松下瑠美子さんに、

①「横隔膜の上下の動き」と「上腹部の柔軟性」との関係、

②「上腹部の柔軟性」と「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」との関係、

の柔軟性」を、説明する。

「上腹部の柔軟性」の大事さを理解していただいた上で

①迷走神経反射の説明と、それを応用した実技を指導。

②ROB呼吸循環体操の説明と実技を指導。

今回は、この二つの方法をもって自宅で、「上腹部の柔軟性」を生む方法を身につけていただく。（ビデオ録画あり）

7月11日（金）台風8号との関連症状が中島さんの体にあらわれる。

台風は熱帯性低気圧と言われる。低気圧の時は体液の循環が悪くなる。そのため、今回中島さんの心臓に負担がかかり、胸痛を訴える。ROB治療で胸痛なくなる。呼吸が深くなる。中島さん、あーあ呼吸が楽です。極楽です。とおっしゃる。（ビデオ録画あり）

7月18日（金）ROB治療と7月4日の説明の内容

①「横隔膜の上下の動き」と「上腹部の柔軟性」との関係

②「上腹部の柔軟性」と「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」との関係

それぞれの関係の理解と実技の実行が効果をあらわし、血圧・脈拍が下がり、唾液もよく出るようになりましたと、中島さんが喜ばれる。（ビデオ録画あり）

7月22日（火）「上腹部の柔軟性」がより明確に、中島さんにあらわれるようになる。

ROB治療後、特に右側頭部硬結と右足三里への雀啄(じゃくたく)治療で、さらに中島さんの右股関節の動く範囲が広がり、右下肢の痛み・右仙腸関節の痛みなくなる。（ビデオ録画あり）

7月23日（水）診療後、中島さん、長女の瑠美子さんに、日程表（表1）を中心に、わたし（石垣）の二つの提案を説明する。

提案①　8月14・15日の日程中は、体を横たえた上での迷走神経反射・呼吸循環体操のみならず、新幹線・バスに乗車中、車椅子ですわっている時にも、迷走神経反射・呼吸循環体操をおこない「上腹部の柔軟性」を保持することを中島さんのみならず、付き添いの娘さんにもその原理と実技を再度指導する。

提案②　あくまでも15日（金）の日本武道館での追悼式参列が、一番の大目標だから14日（木）の靖国神社をはずしてはどうかと提案する。

この2番目の提案に対して、中島さんは「どうしても靖国神社に参りたい。ここだけは、はずせません」とおっしゃる。ご主人の御霊がまつられる靖国神社にどうしても行きたいとの強いお気持ちを、わたしも受け取る。（ビデオ録画あり）

7月28日(月)　中島さんは口内炎になってから横向きに寝ると、舌と歯が接触して痛みがあったため、1カ月以上前から仰向けに寝ていた。しかし、仰向けの姿勢では顎関節が下がるため、睡眠時により口呼吸となってしまう。ぬれマスクをしていてもひじょうに口がかわき、舌がピリピリと口の中全体が痛かった。しかし、7月25日(金)の横向き寝で寝るようにとの指導以来、舌と口の中の痛みが楽になってきたとのこと。食欲がでてくる。（ビデオ録画あり）

8月1日（金）　来院後、すぐの血圧は217／116　脈拍105。治療後、147／78　脈拍93。　体温も気温の上昇とともに上がる。その日の中島さんの来院直後の体温は、37度9分。外気温は、37度3分。

8月4日（月）　上腹部が固く「しこり」あり。迷走神経反射と呼吸循環体操の実技指導後、順調に「上腹部の柔軟性」があらわれていたにもかかわらず、おかしい。なにか日々の生活の中で、変わったことはなかったか中島さんに確認をとる。そうすると、次の答えが帰ってきた。

「読売新聞東京本社から全国版掲載のため、8月7日(木)に、記者さんが取材にこられます。そのための資料の準備などでいそがしくしていました」とのこと。

治療後、上腹部が柔らかくなり凹む状態となる。当然呼吸が非常に大きく、楽になる。気持ち良く、脈も力強くなる。中島さんがいつもおっしゃる極楽状態（呼吸・循環がととのいここちよい呼気ができる状態）となる。（ビデオ録画あり）

8月8日（金）　最終指導。付き添いの助さん・格さん（長女の松下瑠美子さん、次女の中島三千代さん）とともに行う。

今日は、特にROB治療に対する「上腹部の柔軟性」の反応・効果がなかなか出ない。ようやく効果が出てくるがいつものようにハッキリと出ていない。

どうしたのかと問うと、中島さんは、

「読売新聞の取材が、昨日（木）10時から1時間半の予定でしたが3時間に及ぶ取材となり、わたしもはじめてのことで、非常に緊張しその都度、その都度真剣に答えていました。また、主人の遺影をもち、あっち向いて、こちらを向いてと注文が入りその都度、わたしも必死でポーズをとり写真をとってもらったので、緊張の連続でした」

精神的な疲れがまともに「上腹部の柔軟性」を固くしていたのです。

翌日8月9日（土）通院日ではないが、急遽(きゅうきょ)ROB治療を予定する。

8月11日（月）　最終のROB治療を行う。「上腹部の柔軟性」がROB治療で出現する。わたしも、副院長も、かなこ先生も、スタッフも一安心。中島さんも極楽（深く・長く・ここちよい呼気ができること）ですと、ご自分の体の状態を表現する。

【Ⅳ参列された翌日、8月16日診療所での中島治子さん】

8月16日（土）　中島さんが、昨日の参列後、はじめて来院される日です。お盆の休みの後で、がんの患者さん・心房細動で脈拍130の方・統合失調症に対するクスリの副作用でわめきちらす患者さんなどに対応させていただいている間に、副院長と中島さんの会話が聞こえてきました。元気な感謝の声が聞き取れました。あーあよかったなと安堵の気持ちがただよいました。

ベッドサイドでの中島さんの治療になりました。中島さんの第一声です。

「大変に楽にしていただいて、本当にこんな幸せはありません。先生のおかげならではと思って、みんなで本当に感謝しております。ありがとうございます」

この言葉に、

「いやー。本当にみなさんのおかげですね」

そのわたしの言葉にまた嬉(うれ)しいこたえがかえってきました。

「もう先生のお蔭で、ちょっともしんどくなかったです。みな（松下瑠美子さん・中島三千代さん）いっせいに、一線になって電車の中で、車の中で眼・耳を（迷走神経反射の実技のこと）、脚を（呼吸循環体操の実技のこと）くりかえしやってました。疲れしりませんでした」

わたしは、「よかったなー。脚のむくみも出てませんね。靖国神社、参拝させてもらいましたか」との問いに

「それが先生、どじゃぶりでねー。お社のところまで行けなくて、鳥居の下で記念撮影をして帰りました。そのため、昭和館も千鳥ヶ淵もバスの中からお祈りさせていただきました。それが、15日(追悼式当日)は快晴で、もう本当にいいお天気でありがたかったです」

わたしはその話を聞き、なんと御霊であるご主人が、雨を降らして、体に負担のかからないように中島さんの体を守ってくださったのだと感じとりました。

翌日、日本武道館に着きバスを降りると、「中島治子さんですか」と、10人もの記者に取り囲まれ、フラッシュが飛び交いびっくりされたが、いい気分だったこと。皇居を2回もまわり、官庁街・国会議事堂・スカイツリー・富士山と本当に社会勉強させていただきましたとのこと。

「まあー本当にこんな幸せはないとおもいました。うれしゅうて、うれしゅうて」

わたしは、「子どもさんおふたりと、助さん格さんと一緒に行けたしな。もうほんまに晴れの舞台やったなー。ご主人も喜んではりましたやろ」

「喜んでたと思います。親子3人でねー」と中島さんは感慨深げです

「それやがなー。もう、言うことなしや」とわたし。

それから、まるで幼子が母親に逐一報告するように、東京での社会見物の一部始終を一心に話されました。わたしの、副院長の、スタッフの喜びです。

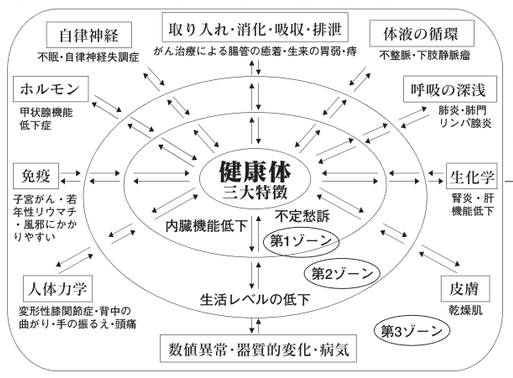
次回よりは、今回掲載された中島治子さんに対する予防方法の大事な柱である「からだ」の「しくみ」を具体的に述べてゆきます。ご期待下さい。

注1　『現在の日本医療再生への提言』現在の日本では慢性疾患の患者主体の予防が必要とされている
＊疾病構造の変化により慢性疾患の予防とケアーが医療の中心に
＊慢性疾患の予防と治療に対応できていない現在の医療とその理由
＊EBM根拠にもとづく医療の最も信頼性の高いレベル1の根拠を「ランダム化比較試験」＝疫学的な統計データに何故おかねばならないのか
18年1月1日号参照

注2　EBM（Evidence Based Medicineの略）とは、「根拠にもとづく医療」の意味。NBM（Narrative Based Medicineの略）とは、「物語と対話による医療」の意味。　DIPEx（Database of Individual Patient Experiencesの略）とは、「患者個人個人の体験が分類整理されたデータ」の意味。患者さんのみならず家族・医療専門家にも、多面的に利用されようとしている。

注3　わたしは、「ART」とは、一人ひとりの体験にもとづく体全体の情報から生まれる「直感」、と定義している。
「直感」とは、説明や証明を経ないで、物事の真相を心でただちに感じ知ること。

【図1】中島治子さんの健康体と慢性疾患の関係



【表1】全国戦没者追悼式参列日程表［平成26年8月14日(木)～15日(金)］

8月14日(木)	9:30	JR新大阪駅 1階団体待合室の前	集合	8月15日(金)	8:30	ホテル発	(貸切バス)
	10:13	新幹線新大阪駅発	(ひかり516号) 昼食弁当配布		9:20～14:00頃	日本武道館	軽食配付 (全国戦没者追悼式参列)
	12:51	新横浜駅着			14:30	明治神宮	
	14:20	靖国神社、昭和館 しょうけい館	(貸切バス乗車) (希望場所に案内)		15:50	東京駅着	
	15:10	千鳥ヶ淵墓苑			16:33	東京駅発	(ひかり521号)
	16:30頃	アパホテル＆リゾート〈東京ベイ幕張〉(宿泊)℡043-296-1111			19:30	新大阪駅着	解散

全国戦没者追悼式の会場で夫の遺影を手にする中島治子さん（中央）。長女瑠美子さん（左）と次女三千代さん（右）が支える

今後のあるべき医療
健康体を活かす医療
たまご理論で病気のしくみを考える
たまごビル院長　石垣　邦彦
〒581-0061　大阪府八尾市春日町 1-4-4
電話 072(991)3398　FAX 072(991)4498
ホームページアドレス http://www.tamagobl.com/

Masui Industry
給排水　衛生　空調　土木工事
設計・施工一式
大阪府知事認可　第106198号
株式会社　桝井工業
代表取締役　桝井尚樹
〒581-0085 大阪府八尾市安中町8丁目10番16号
TEL.072-924-4774　FAX.072-924-5635

NAKAGAWAの
『工場企画』
大スパン、低コスト、短納期

TEL.072-920-1123
事業用地取得・設計施工・建物総合管理
〒581-0038八尾市若林町1-76-3朝日生命ビル1F
中川企画建設㈱

since1905
株式会社マックス
本社〒581-0084 大阪府八尾市植松町2丁目9番29号

party with miffy
ミッフィー ソープギフト
Illustrations Dick Bruna
© copyright Mercis bv,1953-2005 www.miffy.com